

# 身につけるべき学士力調査

## 目的

学士力の基礎資料を得る。

## 対象

2023年3月卒業生（学籍番号19S：209名、他：4名）を対象とした。回答者は心理専攻75名（回答率：73.5%）、こども保育・教育専攻82名（回答率：44.6%）、モチベーション行動科学部41名（回答率：64.1%）である。

## 結果と考察

汎用スキルについて、本学の卒業生は「相手の意見を丁寧に聞くことができる。」「自己の良心及び法規範・社会のルールに従って行動できる。」「他者と協調して行動できる。」「意見や立場の違いを理解し、受け入れることができる。」「自分と周囲の人々や物事の関係性を理解できる。」といった、他者の立場の違いを認めコミュニケーションをすることや他者と協調して活動すること、社会のルールや規範に従い行動することについて、80%以上が身につけることができたと評価している。また、「他者に目標や方向性を示し、その実現のために行動できる。」「目標を設定し、自ら進んで取り組むことができる。」「状況や変化に沈着な対応を行い、適正な行動ができる。」「自らを律して行動できる。」についても70%近くが身につけることが出来たと評価している。

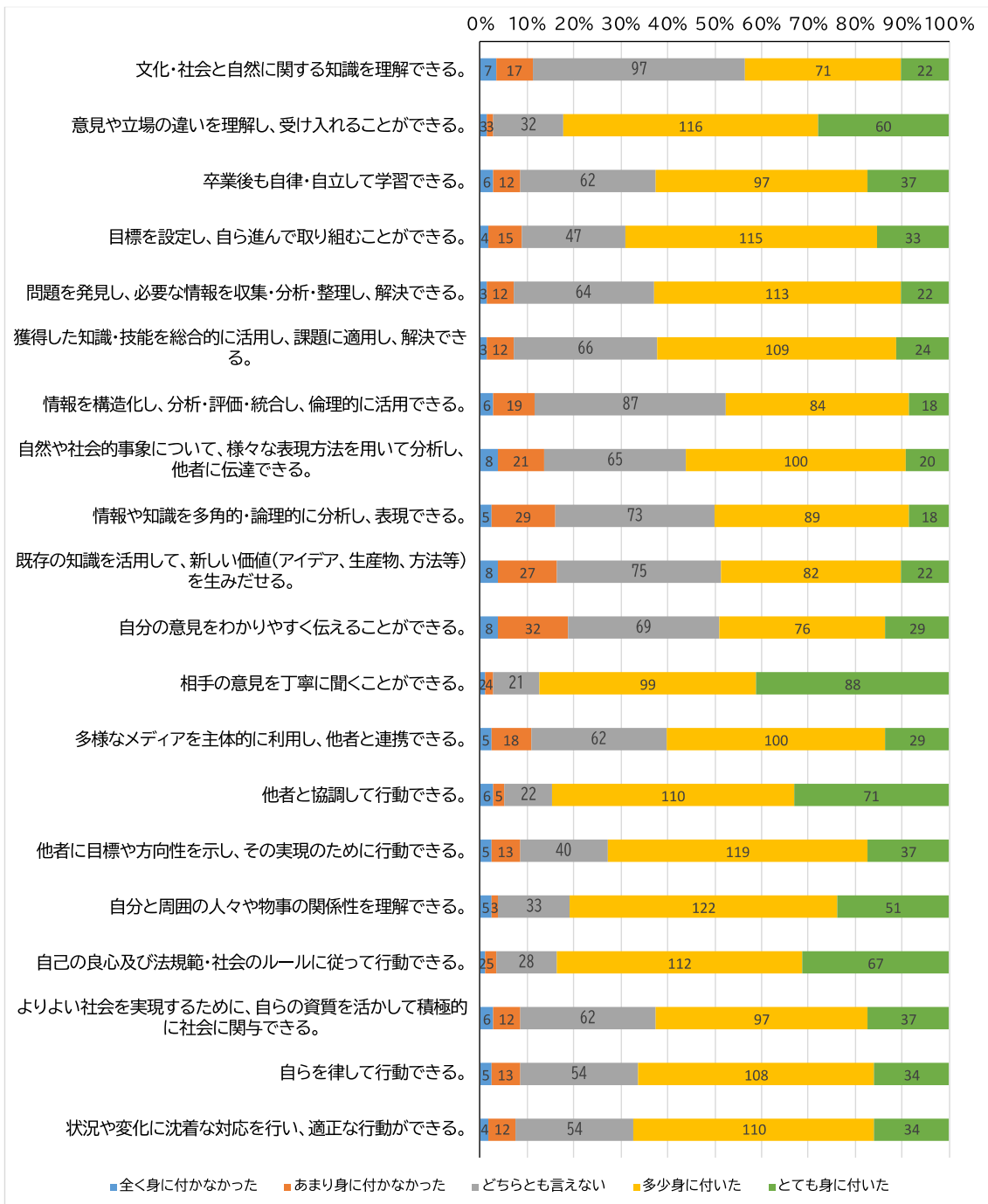
一方で、「自分の意見をわかりやすく伝えることができる」については20%程度、「既存の知識を活用して、新しい価値(アイデア、生産物、方法等)を生みだせる。」「情報や知識を多角的・論理的に分析し、表現できる。」については15%程度の卒業生が身につけることができなかつたと評価していた。

これらの結果から、本学の卒業生の多くは、周囲の対人関係に気を配り、諦めずコミュニケーションする力を獲得し、他者と共に状況に応じて行動することが出来ているが、問題を多角的に分析したり、既存知識を活かして新たな価値を見いだしたり、適切な表現や主張を行うことなどには不十分さを感じていることが明らかになった。

表1 汎用スキル（全体）の平均と標準偏差

項目	平均	標準偏差
1 文化・社会と自然に関する知識を理解できる。	3.39	0.785
2 意見や立場の違いを理解し、受け入れることができる。	4.06	0.608
3 卒業後も自律・自立して学習できる。	3.69	0.862
4 目標を設定し、自ら進んで取り組むことができる。	3.75	0.819
5 問題を発見し、必要な情報を収集・分析・整理し、解決できる。	3.66	0.722
6 獲得した知識・技能を総合的に活用し、課題に適用し、解決できる。	3.66	0.733
7 情報を構造化し、分析・評価・統合し、倫理的に活用できる。	3.42	0.864
8 自然や社会的事象について、様々な表現方法を用いて分析し、他者に伝達できる。	3.48	0.943
9 情報や知識を多角的・論理的に分析し、表現できる。	3.41	0.951
10 既存の知識を活用して、新しい価値(アイデア、生産物、方法等)を生みだせる。	3.38	0.995
11 自分の意見をわかりやすく伝えることができる。	3.40	0.952
12 相手の意見を丁寧に聞くことができる。	4.24	0.686
13 多様なメディアを主体的に利用し、他者と連携できる。	3.61	0.943
14 他者と協調して行動できる。	4.09	0.822
15 他者に目標や方向性を示し、その実現のために行動できる。	3.79	0.814
16 自分と周囲の人々や物事の関係性を理解できる。	3.99	0.730
17 自己の良心及び法規範・社会のルールに従って行動できる。	4.10	0.639
18 よりよい社会を実現するために、自らの資質を活かして積極的に社会に関与できる。	3.69	0.952
19 自らを律して行動できる。	3.72	0.842
20 状況や変化に沈着な対応を行い、適正な行動ができる。	3.75	0.755

図1 汎用スキルについての評価分布

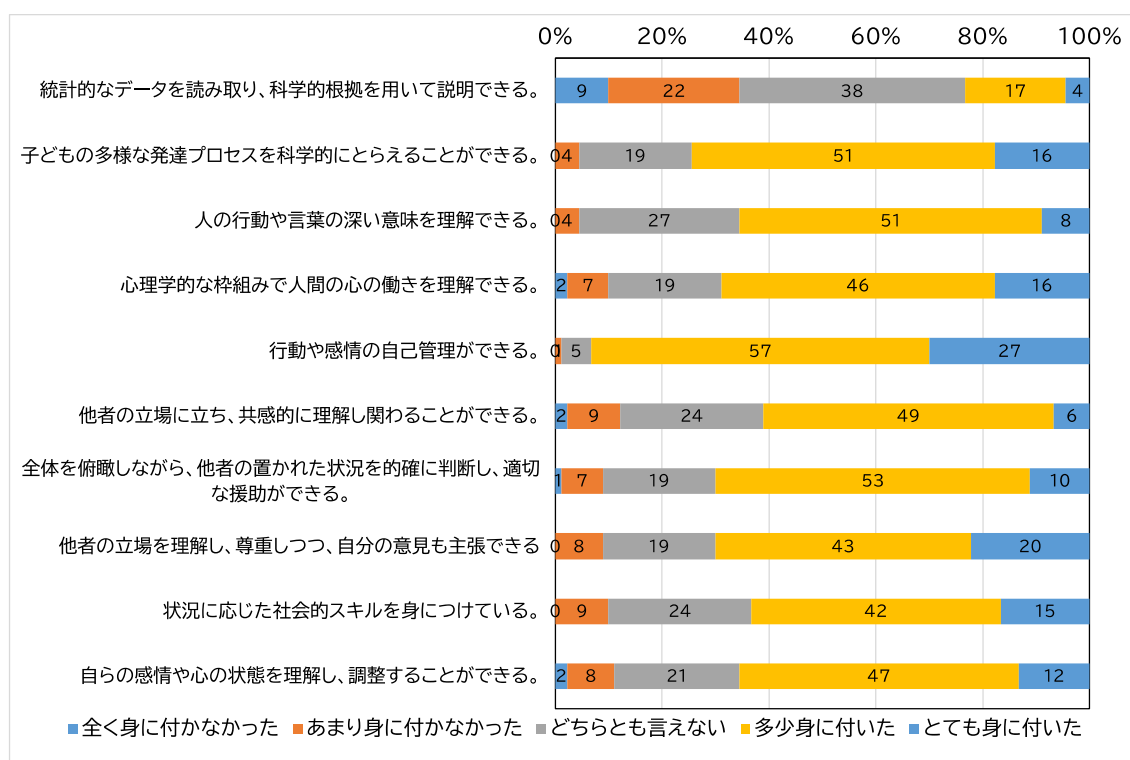


## 専門スキル（心理専攻）

心理専攻における専門スキルの獲得では、「行動や感情の自己管理ができる。」「子どもの多様な発達プロセスを科学的にとらえることができる。」「全体を俯瞰しながら、他者の置かれた状況を的確に判断し、適切な援助ができる。」「他者の立場を理解し、尊重しつつ、自分の意見も主張できる」については7割以上が身に付いたと評価している。一方で「統計的なデータを読み取り、科学的根拠を用いて説明できる。」については、2割程度にとどまっている。

これらのことから、卒業生は自己管理や子どもの発達理解や支援について、また他者とのコミュニケーションについて獲得できているが、科学的な客観的な事象の理解や説明については不十分であると捉えているといえるだろう。

図2 専門スキル（心理専攻）についての評価分布

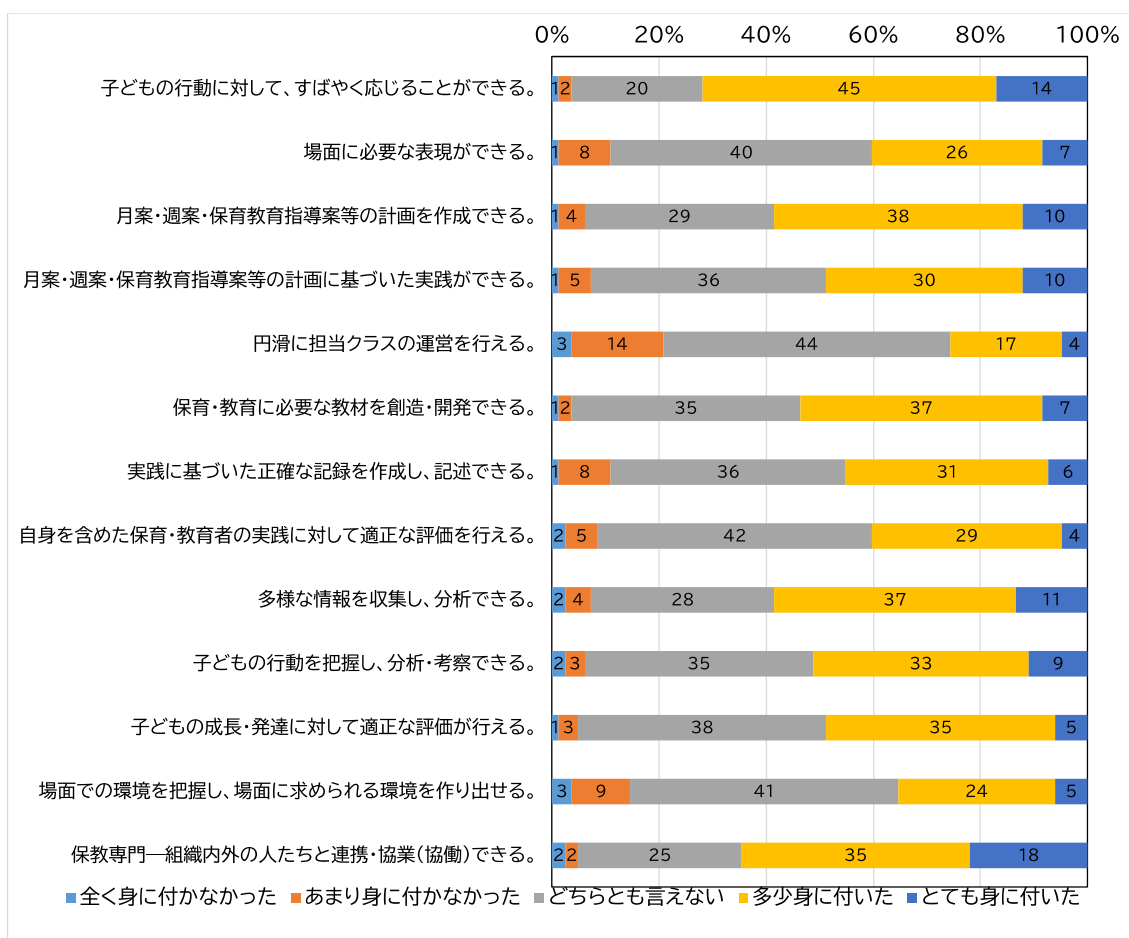


### 専門スキル（こども保育・教育専攻）

こども保育・教育専攻における専門スキルの獲得では、「こどもの行動に対して、すばやく応じることができる」や「組織内外の協働」、「月案・週案・保育教育指導案等の計画を作成できる」、「多様な情報を収集し、分析できる。」について、6～7割近くが獲得できていると評価している。一方で、「円滑に担当クラスの運営を行える」については3割以下に留まっていた。

このような結果から、実習などを通して個別のこどもへの対応や指導案の作成、保育者間の協働などについて獲得に自信を持つことができている、クラスなど集団での活動がコロナ禍における実習が一定の制限下で行われたことから、クラス運営についての課題がうかがわれた。

図3 専門スキル（こども保育・教育専攻）についての評価分布



## 専門スキル（モチベーション行動科学部）

モチベーション行動科学部における専門スキルの獲得では、「人間の成長発達を理解できる」や「客観的な視点で人間行動を理解し分析できる」、「他者を肯定的に理解することができる」については、7割以上の卒業生が獲得できていると評価している。一方で、「国内外の社会情勢を理解する広い視野を持つことが出来る」や、「さまざまな実戦経験をもとに地域の人びとと連携できる。」については、やや獲得ができていないと評価する学生が多かった。

これらのことから、人間理解についての発達の、科学的な視点や身近な他者への肯定的な視点を獲得することができているといえるが、社会情勢や地域社会との連携などよりマクロな視点の求められる領域が低く評価されていた。

図4 専門スキル（モチベーション行動科学部）についての評価分布

